

第2学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 F「武道」 剣道

2 指導の立場

(1)単元・題材について

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。したがって、武道では基本動作と基本となる技を確実に身に付けること、またそれらを用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにすることが大切である。その中でも剣道は、竹刀を使って、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「有効打突」をめざして相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する教材である。

【○ 運動の側面】

剣道は、中学校第2学年では「相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること」をねらいとしている。

本時(第7時)では、示範から、抜き技の有効性に気付き、相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込むことのできる姿を目指したい。そのために、まず、示範と資料提示から目指す姿を明確にし、一足一刀の間合いやタイミング、体さばきなどの技術ポイントを的確におさえることのできる指導をしていきたい。また、後半練習では、互角稽古を取り入れ、身に付けた抜き技を使いながら積極的に攻める姿を目指したい。

【● 集団の側面】

第2学年では、「積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること」をねらいとしている。単元を通して、グループ内やトリオ練習での励まし合いや教え合いを大切に、安全に気を付けながら活動ができ、仲間の頑張りや伸びを認め合いながら共に高まり合える温かな学習集団を目指したい。

(2)生徒の実態について

事前アンケートを行った結果、以下の回答が挙げられた。

設 問	回答(対象 名, 欠席 名) ()内の数字は人数
剣道は好きですか?	好き () 嫌い ()
◇理由	
授業で大切にしたいこと	・大きい声を出したり、言われたアドバイスをしっかりやったりして、できることからやっていく。 ・全員が楽しく、みんなで頑張る。 ・怪我をしないように、安全面に気を付ける。 ・みんなでアドバイスし合って、技能を高める。

【○ 運動の側面】

【● 集団の側面】

(3)指導にあたって

本単元では、しかけ技や応じ技を身に付け、相手の隙をねらったり、相手を崩したりして打ち込むことをねらいとする。そのために、まずはしかけ技の基本となる二段の技と引き技、応じ技の基本となる抜き技の技術ポイントを理解し、正確に打ち込めるようにする。スポッパ棒を使っての練習を取り入れることで、打ち込まれることに対して、「痛い」「怖い」などの苦手意識をもつ生徒の意欲を高め、抵抗感を軽減させることができると考える。また、相互援助活動として「トリオ練習」を積極的に取り入れ、お互いの動きを見ながら「一試技 → アドバイス」をし合うことで、お互いの技能を高められるようにしたい。単元の中盤には、中間対抗戦を位置づけ、それまでの学習の成果を発揮し、さらに技能を磨こうとする姿を目指したい。単元の後半には、最終対抗戦に向けて、自己に適した練習方法を選択し、全員が得意技をつくることのできるようにする。そして最終対抗戦において、今までの練習の成果を発揮し、自己の成長や仲間の成長を実感できる姿を目指したい。

3 研究主題「できる・分かる喜びを自信に変えて学び続ける生徒の育成」とのかかわり

【研究内容1】 教科間での共通事項・終末の10分の持ち方を工夫する

《保健体育科 終末の持ち方》

□判定会 ⇒ 互角稽古の位置付け【評価】

「判定会」では、一人一人が技をみせ、仲間に評価をつけてもらうことで、練習の成果を評価し合う。評価は、有効打突(一本)になる打ち込みができていないかを【大きな声・刃筋正しく打ち込む・残心】の3つの観点で評価する。一人3本打ち込み、3本中3本が有効打突となれば「A」、3本中1～2本なら「B」、3本中0本なら「C」となる。

「互角稽古」では、実際の試合や相手の動きをイメージしながら行うことを大切にする。習得した技を使って、積極的に攻めることができていない姿を価値付ける。

□全体反省会の位置付け

【課題の達成度を確認 ⇒ よい姿を紹介し、価値付ける ⇒ 教師のまとめ】

本時の課題を達成することができたかを全員で振り返る。その中で、自己と仲間の頑張りや伸びを認め合う姿を大切にしていける。運動の側面だけに留まらず、上達できた過程には必ず仲間の存在、支えがあることを確認し合い、「共に高め合える仲間づくり」ができていないことを実感させたい。また、自分たちが使った道具に責任をもって片付け、活動場所を美しくするという姿も大切にする。

充実した終末のために、〈導入〉と〈展開〉で以下の工夫を行う。

〈導入〉前時の中間対抗戦での生徒の実態から、「相手の面打ちに対して竹刀で受けて止めるだけでなく、かわしたり、よけたりする中でさらに反撃して打ち込めるといい。」という意識を取り上げ、本時の課題につなげていく。「どの部位に打ち込めそうかな。」という発問に対して、「面を打つときに手元が上がるから胴が打てそう。」という反応から、「面抜き胴」の有効性に気付かせたい。また、「面抜き胴で大切な技術ポイントって何だろう。」という発問をし、生徒の「間合い。」「タイミング。」「体さばき。」という反応から全体に広め、技能ポイントを明確にしながら目標を共有する。

〈展開〉一単位時間の展開部分の流れとして、「約束練習 ⇒ 中間研究会 ⇒ 実践練習」と段階的に行っていく。「約束練習」では、技を正確に身に付けることをねらいとする。「中間研究会」では、約束練習でのよさと課題を振り返り、上手くできている生徒を紹介しながら、生徒の「もっと練習をしたい。」という意欲を高めたい。「実践練習」では、中間研究会での姿を生かしながら練習をし、生徒全員が判定会で「B評価以上」をとれるようにすることをねらいとする。

【研究内容2】 できた・分かったと生徒が実感できる教師の働きかけを工夫する

(1)一人一人の実態把握を生かした単元指導計画、評価基準表づくり

事前アンケートや、1年時の剣道の学習の様子から生徒がどの部分でつまづくかを予想し、つまづきのある生徒への手立てや、価値付けポイントを単元指導計画の「教師の指導・援助(○)(●)」と評価規準表(◆)に位置付け、明確にした。

(2)技を正確に身に付けるために、スモールステップで行う約束練習

「相手の隙をねらったり、相手を崩したりして打ち込む」ためには、基本となる技を正確に身に付ける必要がある。「正確に身に付ける」ためには、相手との一足一刀の間合いや打つタイミング、体さばきなどの基本動作が非常に大切であると考えた。そこで、いきなり面を着けて竹刀を用いて打ち込むのではなく、「①何も持たずに動きの確認」⇒「②抵抗感を軽減させるスポンジ棒を使って一足一刀の間合いやタイミング、体さばきの確認」⇒「③竹刀を使って確認」⇒「④面をつけて練習」とスモールステップで練習を進めていく。また、練習時間や運動量を確保するために、決められた時間内に防具の着脱ができるように援助していきたい。

4 単元指導計画 2年生女子「剣道」(全10時間) *終末の10分には、グループ反省会、全体反省会、片付けを位置づける。

単元目標 ○しかけ技や応じ技を使って、相手の隙をねらったり、相手を崩したりして打ち込むことができる。

●お互いの動きを見ながら、励まし合ったり、教え合ったりすることを通して、共に高まり合える仲間をめざす。

	時	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 援 助	
計 画	1	運動の側面	集団の側面	運動の側面・集団の側面	運動の側面	集団の側面
		【初エントリ】 ○技能面でのめざす姿を理解し、自己に適した課題をもつことができる。	●めざす仲間の姿を考 えることができる。 ・リーダーの指示でま とまって活動でき る。	・学習カードや示範等から単元全体の流れを知り、見通しを持つ。 ・運動の側面・集団の側面における目標、めざす仲間の姿を決める。 <役割> L(リーダー), PO(技能面), MO(態度面), 体操・記録係, カード係, かご係 ・1グループ6人×5グループ (1グループは混合グループ) ☐ リーダー選出, グループ決め, 学習カードの作成, 大垂れの名前作成 ☐ アンケートの実施。 ☐ 礼儀作法, 竹刀の扱い方, 防具の着脱・片づけ方の確認をする。	○学習カードや示範等により、め ざす姿を具体的に示し、学習 目標を明確につかませる。 ○アンケートとり, 生徒の実態を 把握する。 ○武道ならではの、安全面への 配慮, 相手を尊重する態度の 大切さを話す。	●めざす仲間の姿を 具体的に語り、イメ ジさせる。 ●トリ練習の仕方につ いて説明をする。 「一試技→アドバイス」
基 底 技 能 の 習 得	2	【礼儀作法・基本動作】 ○1年時に学習した 礼儀作法と基本動 作を確認し、身に 付けることができる。	●リーダーの指示でま とまって素早く活動で きる。 ・全員で声を出して取 り組むことにこだわ る。	☐ 礼儀作法 ・正座, 座礼, 立礼 ☐ 基本動作 ・体さばき(足さばき): 送り足, 歩み足, 開き足, 踏み込み足 ・構え: 中段の構え, 竹刀の握り方 ・素振り: 上下振り, 斜め振り, 面打ち, 小手打ち, 胴打ち ・間合い: 一足一刀の間合い(自分の間合いを体で覚える) ⇒ スポンジ棒を使って、抵抗感を少なくする。 ◇判定会(大きな声, 刃筋正しく打ち込む, 残心)	○礼儀作法と一緒に確認する。 ○基本動作の技術ポイントを示範 する。 ・素振りが正しくできない生徒 には、左手で竹刀を振るイメ ジをもたせ、正中線から左こ ぶしと剣先が外れないよう に意識させる。	●まとまって学習で きているグループを 褒め、リーダーの役割 の果たしぶりにつ なげて全体会で価 値付ける。 ・相手を尊重して練習 に取り組むことの 大切さを確認する。
	3	【基本打ち(面打ち・小手 打ち・胴打ち)】 ○一足一刀の間合い から打突部位を正 確に打ち込むこと ができる。	●お互いの動きを見 て、励まし合ったり、 教え合ったりでき る仲間になる。 ・積極的に取り組むこ とができない仲間 に、励ましの声をか けることができる。	☐ 基本打ち ・面打ち: 右足を大きく踏み込んで、正面を打つ。 ・小手打ち: 相手の右小手が見える程度に小さく振りかぶり、真っすぐに 振り下ろして打つ。 ・胴打ち: 頭上で手首を返しなが、斜めの軌跡で右胴を打つ。 ◇約束練習(トリ練習) ⇒ 最初はスポンジ棒を使って、抵抗感を少なくする。 ・一足一刀の間合いから一歩で踏み込んで打ち込む。 ・ねらった場所を正確に打ち込む。 ・「ゆっくり・大きく」から「速く・小さく」へ。 ・元立ちは打突部位を開けて、攻め手が打ちやすいように工夫する。 ◇判定会(大きな声, 刃筋正しく打ち込む, 残心)	○基本打ち(面打ち・小手打 ち・胴打ち)の技術ポイントを示 範する。 ・竹刀を打ち放してしまい、上 手く打ち込みができない生 徒には、打ち込むときにギュ ッと手の内を絞るように声 をかける。 ・常に一足一刀の間合いを意識 させ、思い切って一歩で打ち 込めるように声をかける。	●みんなで励ましの 声をかけ合い雰囲 気を盛り上げるこ とが、技能の向上に 大きく関わること を説明し、一人一人 が声を出すように 促していく。
	4	【二段(連続)の技】 ○相手が最初の技に 応じて隙ができた ところを、連続し て打ち込むことが できる。	●お互いの動きを見 て、励まし合ったり、 教え合ったりでき る仲間になる。 ・上手くできない仲間 に、丁寧に教えるこ とができる。	☐ しかけ技: 相手が技を起こす前に自分から積極的にしかけて相手の隙を つくり、すかさず打突する技。 ・二段(連続)の技: 小手一面, 面一胴 ◇約束練習(トリ練習) ⇒ 最初はスポンジ棒を使って、動き方を確認する。 ・相手が最初の技に応じて隙ができたところを連続して打つ。 ・元立ちは最初の技を竹刀で受けて、攻め手が次の技を連続して打ちやすいように	○二段(連続)の技の技術ポイント を示範する。 ・間合いをうまくつかむことが できない生徒には、最初の技 を「トリ(小さく)」, 次の技を 「ドーン(大きく)」と打ち込む ように声をかける。	●技術ポイントを意識し た具体的なアドバイス ができていない生徒 を紹介し、価値付け る。 ●自信のない生徒に 対して、仲間からの

《判定会》1人3本打ち込み、3本中3本が
有効打突となれば「A」、1～2本なら「B」、
0本なら「C」の評価となる。

			工夫する。 ・「小手一面」は左回りから間合いに入って小手を打ち、面を打ちながら相手の右斜めに抜けることを意識する。 ・〈トン(小さく)・ドーン(大きく)〉のリズムで打つ。 ◇判定会(大きな声、刃筋正しく打ち込む、残心) ◇互角稽古	○互角稽古で積極的に攻めにいくことができない生徒に声をかけ、どういうタイミングで打ち込んだり、技を出したりするとよいかを一緒に確認する。	援助活動ができるように、働きかけていく。
5	【引き技】 ○つばぜり合いから、相手に隙ができたところを引きながら打ち込むことができる。	●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。 ・上手くできない仲間に、丁寧に教えることができる。	□つばぜり合い：接近してきても、左のこぶしの位置がつかねに変わらないようにする。 ・引き技：面ー引き面、面ー引き胴 ◇約束練習(トリオ練習) ⇒ <u>最初はスポンジ棒を使って、動き方を確認する。</u> ・つばぜり合いから、相手に隙ができたところを引きながら打つ。 ・元立ちは最初の面打ちを竹刀で受けて、つばぜり合いの形をつくる。 ・「引き面」はつばぜり合いの状態から、相手を後ろへ押し放すようにし、そのまま面を打ちながら下がっていく。面を打った後は、竹刀を引き上げながら、そのままの形で素早く下がる。 ・「引き胴」はつばぜり合いの状態から、自分のつばを相手のつばの上のせ、上からのしかかるようにして相手の竹刀を押し下げる。相手が元の状態に戻そうと押し上げてくるところを、竹刀をはずし、勢いで相手の手元が上がったところを胴を打ちながら下がっていく。 ◇判定会(大きな声、刃筋正しく打ち込む、残心) ◇互角稽古	○引き技の技術ポイントを示範する。 ・相手との距離が近くなりすぎてつばぜり合いがつぶれた形になっている生徒には、左こぶしの位置が構えたときと同じ位置にあるように声をかける。 ○互角稽古で積極的に攻めにいくことができない生徒に声をかけ、どういうタイミングで打ち込んだり、技を出したりするとよいかを一緒に確認する。	●技術ポイントを意識した具体的なアドバイスができている生徒を紹介し、価値付ける。 ●互角稽古では、つばぜり合いの状態が長く続いてしまわないように、審判役の一人に声のかけ方を確認する。⇒「分かれ」
6	【中間対抗戦】 ○学習した技を使って、思い切って踏み込んで打ち込むことができる。	●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。 ・仲間が練習の成果を発揮できるように声をかけ合うことができる。	◇グループ別練習 ・学習した技の確認をする。 ・試合をイメージして、素早く正確に打てるように練習をする。 ・元立ちは打ち込むところを分かりやすく示す。 ◇簡易試合(1分2本勝負 グループ内) ・試合者2人、審判2人、得点係2人で交代しながら行う。 ・審判2人が有効打突と認めたら1点。時間内に何点取れるかを競う。 ・審判は自信をもってはっきりと公正公平に判定を行う。	○今までに学習した技と一緒に確認する。 ・面打ち、小手打ち、胴打ち、小手一面、面一胴、引き面、引き胴。 ○真剣に試合に取り組む姿や、練習の成果を積極的に発揮する姿を価値付ける。	●全員が公正公平な審判ができるように審判の仕方を確認する。
7 本時	【抜き技(面抜き胴)】 ○相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込むことができる。	●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。 ・トリオ練習での仲間とのよい関わり合い方を確認する。	□応じ技：相手がしかけてきたときに、抜き、すり上げ、返すなどして反撃する技。 ・抜き技：面抜き胴 ◇約束練習(トリオ練習) ⇒ <u>最初は何ももたずにタイミングや体さばきの確認をする、次にスポンジ棒を使って、動き方を確認する。</u> ・相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら隙のできた右胴を打つ。 ・元立ちは思い切って大きく踏み込んで面を打ちにいく。 ◇判定会(大きな声、刃筋正しく打ち込む、残心) ◇互角稽古	○面抜き胴の技術ポイントを示範する。 ・間合いやタイミングをつかむことや、体さばきがうまくできない生徒に声をかけ、一緒に動きを確認する。 ○互角稽古で面抜き胴を使って攻めることができていない生徒に価値付ける。	●前時の振り返りからトリオ練習の中で、お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりできている姿を紹介し、仲間とのよい関わり合い方を確認する。

基底技能の活用	8	【グループ内課題別練習】 ○自己の課題に合った練習を行い、得意技をつくることができる。	●共に高まり合える仲間になる。 ・最終対抗戦に向けて、お互いの技を磨くことができるように声をかけ合うことができる。	◇グループ内課題別練習 ・最終対抗戦に向けて、自己の課題に合った練習を行い、身に付けた技(しかけ技、応じ技)から得意技をつくる。 ◇互角稽古 ・得意技を多く使って攻める。	○より技を磨こうと練習に励む姿を価値付ける。 ・上手くできない生徒や、なかなか得意技を見つけることができない生徒に声をかけ、一緒に動きを確認する。	●より技を磨こうと積極的に声かけやアドバイスができているグループを紹介し、価値付ける。 ・仲間のよい姿を取り入れながら練習に励む生徒を紹介する。
	9	【最終対抗戦】 ○優勝を目指して、練習の成果を精一杯発揮することができる。 ○しかけ技や応じ技を使って、相手の隙をねらったり、相手を崩したりして打ち込むことができる。	●共に高まり合える仲間になる。 ・練習の成果や、仲間の頑張りを認め合うことができる。	□最終対抗戦(1分2本勝負 グループ対抗の団体戦) ・各グループから一人ずつ試合者を出す。各試合は勝者の数が多いグループが勝ち。 ・審判・記録は試合がない1グループの中で分担して行う。審判を2人で行い、2人が有効打突と認めたら1本。 ・審判は自信をもってはっきりと公正公平に判定を行う。 ・相手を尊重する態度を大切にする。反則をしない。(2回反則→相手に一本を与える)	○真剣に試合に取り組む姿や、練習の成果を積極的に発揮する姿を価値付ける。 ○しかけ技や応じ技を積極的に使って、攻めることができる姿を全体に紹介し、価値付ける。	●最終対抗戦で仲間の頑張りを認め合うことができる姿を価値付ける。 ●全員が公正公平な審判ができるように審判の仕方を確認する。 ・反則について確認する。
反省会	10	【反省会】 ○最終対抗戦の結果や学習の足跡をもとに振り返ることができる。	●めざす仲間の姿になることができたか振り返ることができる。	□反省会 ☆最終対抗戦の結果から振り返る。☆課題達成度から振り返る。 ・自分の役割を果たすことができたか。 ・めざす運動の姿、仲間の姿になることができたか。	○最終対抗戦を通して、個人の頑張りを認め、価値付ける。 ○グループとしての頑張りを認め、価値付ける。	●仲間の頑張りを認め合えた姿や、励まし合い、教え合えた姿、グループの成長した点を、具体的な事実を通して全体場で認め、価値付ける。

- 5 本時のねらい〈運動〉○示範から、抜き技の有効性に気付き、相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込むことができる。
 〈集団〉●既習から、トリ練習での仲間とのよい関わり合い方を確認し、お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。
- 6 本時の展開（本時の位置 7/10）

		学習内容		学習活動	【研究2】教師の働きかけ	
		○運動の側面	●集団の側面	運動・集団	○運動の側面	●集団の側面
つかむ	計画会	◆リーダーが中心となって、グループでそろって準備をする。 ・黙想 → あいさつ(座礼) ・本時の課題をつかむ ○相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込めるようになる。 ●お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になろう。 【初めの意識】・怖い。上手くかわせるかな。 ・間合いやタイミングをつかむことや、体さばきが難しそうだな。 ・仲間の動きをよく見てアドバイスできるように頑張るぞ。 ○示範と資料提示から技術ポイントをつかむことができる。 ●前時の振り返りから、トリ練習の中で、お互いの動きを見ながら具体的なアドバイスができていた姿を紹介する。		◆体育館1周、準備体操、防具(垂れ、胴)の装着 → 黙想 → あいさつ ・リーダーが中心となって、グループ全員がすばやく防具を装着できるようにする。⇒ 黙想をすることで集中力を高め、落ち着いた雰囲気をつくる。 ①〈全体計画会〉 発問1：前時の中間対抗戦を振り返ったときに、みんなが一番使った技って何だろう。→「面打ち」 発問2：相手が面を打ってきたときに竹刀で「受ける」以外にできそうなことはあるかな。→「かわす」「よける」 発問3：相手の面打ちをかわしたり、よけたりしながら、さらに反撃して打ち込めるといいよね。どの部位に打ち込めそうかな。→「面を打つときに手元が上がるから胴が打てる」 ・本時の課題の確認、練習方法の理解、安全面の確認、技術ポイントをつかむ。 発問4：「面抜き胴」で大切な技術ポイントって何だろう。→「一足一刀の間合い」「タイミング」「体さばき」 ②〈グループ計画会〉学習カードを記入して、目標を確認する。 ・リーダーが進行を行い、練習方法(安全面)、技術ポイントの確認。	◆防具の装着がすばやくできるように声をかける。また、防具の装着がすばやくできているグループの価値付けも行う。 ①前時から、本時の課題につなげる。 【発問1～3】 ○前時の中間対抗戦から、一番多く使う技が「面打ち」であることを確認する。本時は相手が面を打ってきたときに、瞬時に体をかわして胴を打って反撃する「面抜き胴」が有効であることを、示範から気付かせる。 【発問4】 ○「面抜き胴」を行うときに大切な技術ポイントを示範と資料提示から確認する。 ●トリ練習の中で、技術ポイントから見る視点を明確にする。 ●前時の振り返りから、トリ練習の中で、お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりできている姿を紹介し、仲間とのよい関わり合い方を確認する。	
	前半練習 中間研究会 後半練習	〈前半練習〉・面抜き胴 【約束練習】(学び合いの場合) (1)何も持たずに動きの確認 (2)ｽｯｼﾝｸﾞ棒で一足一刀の間合いやタイミング 体さばきの練習 (3)竹刀を使って練習 (4)面をつけて練習(面の装着) 【前半練習終了時の意識】 ・間合いやタイミングをつかむことができた。斜め右前に体をさばいて打つことが大切だ。 〈中間研究会〉 ○前半練習を振り返り、評価会と互角稽古につなげる。 〈後半練習〉【実践練習】 ○判定会に向けて、技能を磨く。	●動き方が分からない仲間に丁寧に教えることができる。 ●お互いの動きを見ながら、間合いやタイミング、体さばきについてアドバイスをし合う。 ・「間合いが近すぎるよ。相手の動きをよく見て。相手の手元が上がったら、右斜め前にかわしながら胴を打つよ。」 ●前半練習でかけ合えたアドバイスを確認し、後半練習や判定会、互角稽古につなげる。 ●中間研究会で確認した技術ポイントをお互いに見合う。	③〈前半練習〉【約束練習】 ○面抜き胴の練習をする。(トリ練習) (1)何も持たずに動きの確認 (2)ｽｯｼﾝｸﾞ棒で一足一刀の間合いやタイミング、体さばきの練習 ・タイミング：「相手の手元が上がったら」 (3)竹刀を使って練習 (4)面をつけて練習(面の装着) ・1本ずつ交互に、交代しながら行う。 ・最初はゆっくりなｽﾍﾞｰﾄﾞで、徐々にｽﾍﾞｰﾄﾞをあげていく。 ・有効打突に必要なｱｰｸ(～)を意識して行う。 ●お互いの動きを見ながら、「1試技 → アドバイス」を心がける。 ④〈中間研究会〉【前半練習から後半練習へ】 ○お手本となる仲間の面抜き胴を見て、めざす姿や参考となる技術ポイントを確認する。 ○判定会で全員が「B評価以上」をとることができるように、後半練習への意欲を高める。 ⑤〈後半練習〉【実践練習】 ・1本ずつ交互に、交代しながら行う。 ・相手が面を打ってくると思った瞬間に、胴を打ち込みに行く。	【有効打突の条件】 ｱ)大きな声。気迫。 ｲ)竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打つ。 ｳ)残心を示す。 ③上手くできない生徒に声をかけ、一緒に技術ポイントを確認しながら練習する。 ○動画を撮影し、動きや上達を確認できるようにする。 【C→B】への生徒への手立て ・一緒に動きながら、技術ポイントを確認する。動画を撮影して自己の姿を振り返りやすくし、少しでも上達した姿を価値付け、自信をつけさせる。自分の打突が有効打突になるかを考えさせる。 【B→A】への生徒への手立て ・ゆっくりなｽﾍﾞｰﾄﾞから徐々にｽﾍﾞｰﾄﾞをあげ、より実践的に練習をさせる。「相手の手元が上がったら」という意識から、「相手が打ってくると思った瞬間に」という意識へ変えていく。	③具体的なアドバイスの仕方が分からない生徒には、どんな声のかけ方があるかを考えさせる。

	評価	【判定会⇒互角稽古】 ○判定会で練習の成果を発揮する。 ○互角稽古で、相手が面を打ってきたときに、体をかわして胴を打つことができる。	●判定会では、責任をもって公正公平な判定をする。 ●互角稽古では、安全面に気を付けながら真剣に取り組む。	⑥〈評価〉【判定会 ⇒ 互角稽古】 ○判定会(面抜き胴、A - B - Cの3段階評価、グループごとに一人3本)を行う。 ・評価の基準は、有効打突(一本)になる打ち込みができているか。 ・有効打突の条件は【大きな声、刃筋正しく打ち込む、残心】の3つとする。 ・3本中3本、有効打突なら「A」、1～2本なら「B」、0本なら「C」の評価とする。 ○互角稽古(グループ内で3人1組、1分)を行う。 ・練習した技を使って積極的に攻める。安全面に気を付けながら真剣に取り組む。	【研究1】終末の10分 ⑥評価の場を位置付ける。 ⑥判定会や互角稽古で練習の成果を発揮しながら取り組む姿を価値付ける。 ⑥判定会の評価について、仲間の評価を責任をもって評価する姿を価値付ける。 ⑦グループ反省会に入り、上達した姿を価値付ける。 ⑧課題の達成について評価し、次時の課題につなげる。
まとめる	反省会	○相手が面を打ってきたときに、体をかわして胴を打つことができたかを振返る。 【終わりの意識】 ・相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込むことができた。 ・抜き技は、間合いやタイミングをつかむこと、体さばきが大切。 ・お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりして上達できた。	●お互いの動きを見ながら具体的なアドバイスができる仲間をめざせたかを振返る。	⑦〈グループ反省会〉 ・判定会、互角稽古の結果から、全員がB以上の評価をとることができたか、面抜き胴ができたか、成果と課題を振り返る。 ⑧〈全体反省会〉 ・課題の達成度を確認し、次時の課題をつかむ。 ○相手が面を打って出た瞬間に、斜め右前に体をさばきながら胴を打ち込むことができる。【技能】 ◇学習カード、練習の巡視、判定会、互角稽古の場	